



### ◇会場難ということ◇

美術展の会場はどれも年々狭められてゆくようである。札幌の例だと他の都市に比べ、人口の割にあり余るほどのギャラリーを有しているように見えるのだが、それでも獲得する競争率は大変なもの。使用料が高いためにあのギャラリーは止めようなどという余裕は全然なくなつてしまつた。ここで新しくできる札幌市民会館あたりが「どんと来い」と胸を叩くような設備と態度を見せてくれれば、たちまち救世主に崇め奉られるところだつたのだが……。いよいよ貴重になつたギャラリーの壁面が、せめて早い者勝ちとかスタバリウムで左右されなくなれば結構だ無意味な個展が四日も五日も会場を独占するようなぜいたくな時代でないということ、会場側も作家側も、よく知る必要がある。

### ◇新人展を新設優遇せよ◇

そこで、有名でもなく、有力でもないが有望だという新人たち、彼らの作品をどう伸ばして行き、どう世に紹介するかという大きな問題が残る。彼らが独力でギャラリーを獲得するのはまず不可能にひとしかつた。しかし先輩たちには、彼らにある程度道を開いてやる義務があつたのではないか。その点で最近嬉しいと思つたのは展覧が二十二人の新人を選抜して展覧会をまつてやつた事実だ。新人たちにとっては展覧会場で金紙や銀紙をはられるよりもつと大きな喜びであつたらう。もの真似などと照れずに、他の会でも大いにこれやること、しかももつともつと本腰を入れてやること。いままで全然考えられていなかったことの方がおかしいのである。

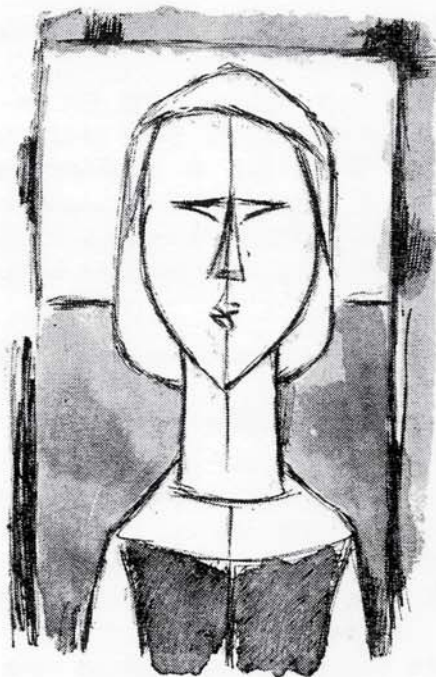
### ◇ペースをよく知ること◇

全道展にひきつづいて、ことしは7月から道博の美術館（豊平館）に道関係作家約4百名の作品が陳列される。ほぼ北海道美術界の現有勢力の全貌を示そうというのだから盛んな内容のものになりそうだ。道博事務局では開催に先

かけて出品依頼者にたいして予定号数の調査を行つたところ、平均（洋画、日本画）70数号という数字が出た。意欲はわかるのだが詳細に見て行くと、明らかに自分のペースをこわして、やたらに大きいものを描こうという傾向がある。いつも30号からせいぜい40号でりつばな作品を描いている人、もつと小さな水彩画で味わいのある筆をみせている人、それらがわれもわれもと100号を予定してくるからこうなる。大きいからいいのか、これを機会にまた一論議起るだろう。

### ◇自分たちの美術史を◇

もうそろそろまとめられてそよのじやないかと、かねてからいわれていた「北海道美術史」がいよいよ北美協の雑誌「北美」で資料作成、連載の運びになる。今田敏一氏の筆になるのだが、これを少しでも完全なものにするためには作家たちも進んで協力することが望ましい。公表されていない資料や、珍しい記録、エピソード、みんなが持寄つて、自分たちの生きた美術史を残したいものだ。（T）



Gyu. Takeuchi

#### 営業品目

バッヂ・カットプ・橋  
徽章類一式・ネームプレート  
各種鑑札類

専門製作



弊社は道内最古の歴史と、洗練されたる技術とをもちまして、道内唯一の専門店として技術の練磨に精進致して居ります。何卒多少にかかわらず御下命の程をお願い申し上げます。

札幌市南4条西3丁目 ススキノ停留所前

株式会社 札幌メダル商会

電話 ④1209番